

事業の概要

項 目	内 容
実施場所	高松市地域包括支援センター香川（香川総合センター2階）
履行期間	令和5年4月1日から令和7年3月31日まで
担当地区	塩江、香川、香南
受託法人	社会福祉法人 はつき会
業務内容	地域包括支援センターの運営 (事業実施計画書、研修計画書等に基づき、業務運営を実施)
人員体制	8人 【内訳】 所長1人(社会福祉士)、保健師2人(本市から派遣)、主任介護 支援専門員2人、社会福祉士1人、介護支援専門員1人、事務1人

高松市地域包括支援センター香川 重点目標 (令和5年度 モデル事業:第1期)

重点目標	目 標		主な取組内容	評価指標
効果的な更なる地域包括ネットワークの強化	(1)	関係機関との連携による包括的なネットワークを構築する。	● 地元で開催する関係機関の会議への出席等により、地域の声を聴くことにより、地域の実情に応じた連携を深める。 ● 地域の多職種の参加による会議(地域ケア小会議)等に参画し、個別課題から地域の課題を把握するとともに、その課題解決に向けた取組みを行う。	① 関係機関等主催による会議の出席数 ② 包括香川主催の会議開催回数 ③ 会議以外で連携を行った回数(関係機関先への訪問、情報共有等)
	(2)	地域の介護支援専門員や、医療・福祉等の関係機関との連携により、個別ケースに対する支援を充実する。	● 複合的、緊急的な問題を抱える個別ケースに対し、多職種・多機関で協力し、支援を行う。 ● 地域の介護支援専門員からの個別相談やケース対応、地域ケア小会議等により、連携強化、支援の資質向上を図る。 ● 医療機関と連携を強化し、高齢者が抱える心身の状況に合わせた支援を行う。 ● 民間の特性を生かし、柔軟な発想や対応により、今まで培ったネットワークを深化させる。	① 介護支援専門員からの相談件数 ② 介護支援専門員との同行訪問数、ケース対応件数 ③ 多職種との連携回数と職種、ケース件数 ④ 医療機関との連携回数と職種、ケース件数

目標（１）関係機関との連携による包括的なネットワークを構築する。

【結果】

評価指標	令和4年度	令和5年度
①関係機関等主催による会議の出席数	5 5 回	1 0 3 回
②包括香川主催の会議開催回数	6 回	9回
③会議以外で連携を行った機関数 （関係機関先への訪問、情報共有等）	-	23か所※

※内訳：医療機関【10か所】、老人介護支援センター【3か所】、認知症カフェ【3か所】
コミュニティセンター【5か所】、金融機関【2か所】

【評価】

関係機関等主催の会議への参加や、包括香川主催の会議の開催等を通して、ネットワークの構築に努めた。地域の会議以外の訪問や情報共有も積極的に行うことで、地域の声を聴いたり、情報共有を行うことができた。また、地域の特性を反映した情報発信を行うこともできた。今後は、医療機関や金融機関等、福祉分野以外とも更なる連携を図っていくとともに、顔の見える関係作りを広めつつ、地域課題の把握・共有・解決に向けた取り組みに発展させていく必要がある。

目標（２）地域の介護支援専門員や、医療・福祉等の関係機関との連携により、個別ケースに対する支援を充実する。

【結果】

評価指標	令和4年度	令和5年度
①介護支援専門員からの相談件数	5 3 件	8 0 件
②介護支援専門員との同行訪問数、 ケース対応件数	訪問数 : 4 回 対応件数 : 2 2 件	訪問数 : 1 0 回 対応件数 : 5 5 件
③多職種との連携回数と職種、ケース件数※	連携回数 : 3 4 回	連携回数 : 6 3 回
④医療機関との連携回数と職種、ケース件数※	連携回数 : 2 7 回	連携回数 : 5 0 回

※総合相談で連携した機関・職種

- ・連携機関：自立相談支援センター等相談機関【3か所】、各事業所のケアマネジャー
- ・医療機関：総合病院【5か所】、精神科病院【4か所】、脳外科病院【1か所】、クリニック【2か所】
- ・職 種：医師、看護師、社会福祉士、精神保健福祉士

【評価】

介護支援専門員との連携については、モデル事業開始前と同様、介護支援専門員からの相談や同行訪問、多職種との連携を図りながら、ケースの支援を行うことができています。また、高齢者虐待ケース等の対応についても、関係機関と連携を図りながら支援を行うことができた。支援困難ケースの多くは認知症が関連している場合が多く、本人・家族の支援の重要性が高まっていると考えられる。

高松市地域包括支援センター香川 重点目標 (令和6年度 モデル事業:第2期)

重点目標	目 標		主な取組内容	評価指標
効果的な更なる地域包括ネットワークの強化	(1)	関係機関との連携による包括的なネットワークを構築する。	●地域包括支援センター香川の認知度向上に向けた取組の実施（X（旧Twitter）による情報発信、エリアパンフレットの発行）。 ●地元で開催する関係機関の会議への出席等により、地域の声を聴くことにより、地域の実情に応じた連携を深める。 ●地域の多職種の参加による会議(地域ケア小会議)等に参画し、個別課題から地域の課題を把握するとともに、その課題解決に向けた取組みを行う。	①X（旧Twitter）フォロワー数 100人 ②エリアパンフレットの配布数 500部 ③関係機関等主催による会議の出席数 110回 ④包括香川主催の会議開催回数 7回 ⑤会議以外で連携（訪問、情報共有等）を行った関係機関 25か所
	(2)	地域の介護支援専門員や、医療・福祉等の関係機関との連携により、個別ケースに対する支援を充実する。	●複合的、緊急的な問題を抱える個別ケースに対し、多職種・多機関で協力し、支援を行う。 ●地域の介護支援専門員からの個別相談やケース対応、地域ケア小会議等により、連携強化、支援の資質向上を図る。 ●関係機関等と連携を強化し、高齢者やその家族が抱える心身の状況に合わせた支援を行う。 ●認知症本人・家族支援をする場の充実を図っていく。	①介護支援専門員からの相談件数 80件 ②介護支援専門員との同行訪問数 10回、ケース対応件数 55件 ③関係機関との連携回数 70回 ④認知症地域支援推進員の相談延件数 130件 ⑤認知症カフェでの家族のつどいの開催 年4回

令和6年度スケジュール

	取組方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月～3月
目標（1） 関係機関との連携による包括的なネットワークを構築する。	医療機関や金融機関等との連携	エリアパンフレットの配布						
		X（旧Twitter）による情報発信						
		【個別ケース対応】 個別ケースを通して各機関と連携						
	分析した地域情報等の発信、地域課題検討	地域福祉ネットワーク会議等で地域分析情報提供						
		地域福祉ネットワーク会議での検討・地域情報の分析結果に基づいた取組（認知症サポーター養成講座・エリアパンフレットによる周知啓発など）						
目標（2） 地域の介護支援専門員や、医療・福祉等の関係機関との連携により、個別ケースに対する支援を充実する。	認知症のケースを支援の場につなぐ	【個別ケース対応】 必要なケースに、本人の集い・家族支援の場等を紹介						
	家族支援の場を設定するなど、認知症の本人・家族支援機能を充実。	圏域内の認知症カフェで家族のつどいを開催（年4回）						